

令和2年度 [丹後織物業の景況・動向調査] 報告書

[令和3年3月 公益財団法人 京都産業 21 北部支援センター]

(公財)京都産業21北部支援センターでは、丹後地域の織物業の景況・動向を把握し、関係機関等の支援施策等の参考としていただくため、アンケート調査と聞き取り調査を実施しました。

■調査対象	丹後地域内の織物事業者 151事業者 (丹後織物工業組合に加入する委託事業者(親機事業者))
■調査時期	令和3年2月～3月
■調査方法	アンケート調査(回答者83事業者 回答率54.9%) 聞き取り調査(電話・対面)21事業者
■回答数	所在地別 京丹後市40(49.4%) 与謝野町41(50.6%) (※未記入2)

■景況全般について

- 令和2年の丹後ちりめんの生産量は和装需要の減少に、新型コロナウイルス感染症の影響が相俟って、15.4万反、前年比60.9%の大幅な減少となった。
- 今回の調査でも、景況感のDI値は-91で前年の-46に比べ45ポイント悪化、また、令和3年の見通しのDI値は-91で前年の-69に比べ22ポイント悪化となっており、非常に厳しい結果となった。
- 採算状況も赤字とする企業が61%で前年の26%に比べ、35ポイント悪化した。
- 新型コロナウイルス感染症の影響があるとの回答は97%で、「売上・受注の減少」、「取引機会の減少・中止・延期」「原材料・部品などの調達」など幅広い項目に及び令和3年についても99%が影響があると回答した。
- 公的支援制度の活用状況は、「持続化給付金」の活用98%が多く、「融資・貸付制度」「雇用調整助成金」の順となり、今後も同様の支援を希望する結果となった。

■今後必要な取組みについて

- 「新商品の開発」(36件)、「新規販路の開拓」(36件)、「直接販売(インターネットなどを含む)」(25件)など商品開発・販路開拓に関わる回答が多数となった。

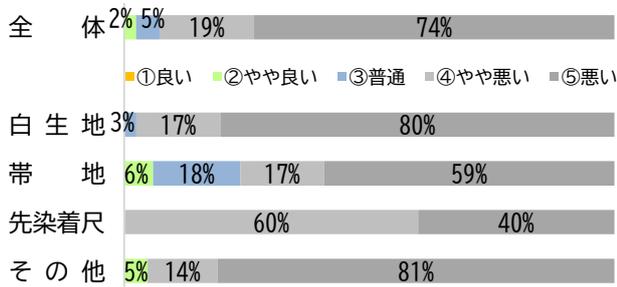
I 事業所について

■代表者の年齢	年齢	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	
	事業者数	14	22	14	27	4	
■内機・出機の有無	内機・出機の有無	内機のみ有り	内機・出機両方有り	出機のみ有り			
	事業者数	30	29	21			
■内機の織機台数	内機の台数	1～4台	5～9台	10～14台	15～19台	20台以上	
	事業者数	19	20	9	3	7	
■内機の従事者数	内機の従事者数	1～4人	5～9人	10～14人	15～19人		
	事業者数	38	15	5	2		
■主な生産品目の割合 (50%以上の生産品目)	主な生産品目	白生地	帯地	先染着尺	その他		
	事業者数	40	17	5	21		
■主な取引先の割合 (最大の取引先)	主な取引先	問屋	メーカー	百貨店	小売店	ネット販売	その他
	事業者数	43	31	2	2	2	1

Ⅱ 景況全般について

※DI 値 = 「良い」「やや良い」と回答した企業の割合から「やや悪い」「悪い」と回答した企業の割合を差し引いた値

1 令和2年の景況感



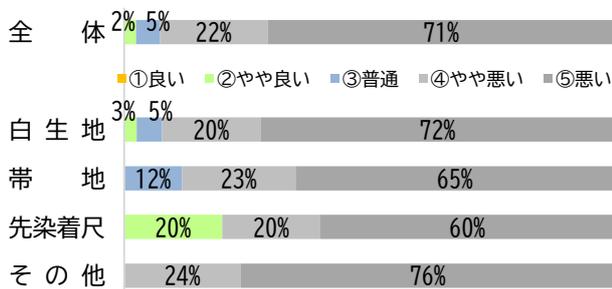
●全体：

令和2年のDI 値は-91 で前年の-46 に比べ 45 ポイント悪化となった。

●生産品目別：

DI 値は、白生地-97（前年比 47 ポイント悪化）、帯地-70（前年比 17 ポイント悪化）、先染着尺-100、その他（和装小物、服地、インテリア地、ネクタイ地等）は-90（前年比 51 ポイント悪化）となった。

2 令和3年の見通し



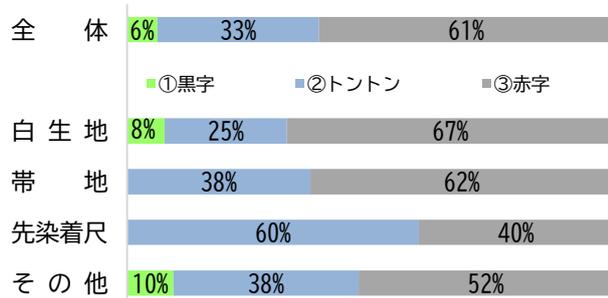
●全体：

令和3年の見通しのDI 値は-91 となり、前年の-69 に比べ、22 ポイント悪化と厳しい見通しとなっている。

●生産品目別：

DI 値は、白生地-89、帯地-88、先染着尺-60、その他-100の見通しとなった。

3 令和2年の採算状況



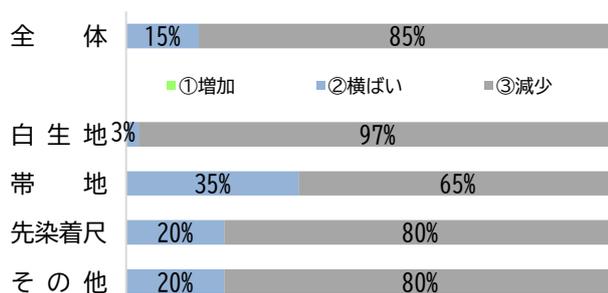
●全体：

「黒字」が6%(前年比 20 ポイント減少)、「赤字」は61%(前年比 35 ポイント悪化)となり、赤字が黒字を上回り、厳しい状況となった。

●生産品目別：

「黒字」の比率は、白生地 8%（前年比 22 ポイント減少）、その他 10%（前年比 25 ポイント減少）
「赤字」は、白生地 67%（前年比 40 ポイント悪化）、帯地 62%（前年比 35 ポイント悪化）その他 52%（前年比 30 ポイント悪化）となった。

4 令和2年の生産・受注量



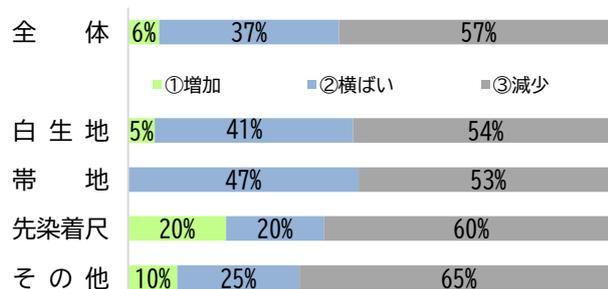
●全体：

「減少」が85%で前年の48%に比べ 37 ポイント悪化となった。

●生産品目別：

白生地 97%（前年比 40 ポイント悪化）、帯地 65%（前年比 35 ポイント悪化）その他 80%（前年比 28 ポイント悪化）となった。

5 令和3年の生産受注見通し



●全体：

「増加」が6%で前年に比べ 2 ポイントの増加、「減少」が57%で前年に比べ 9 ポイントの悪化となった。

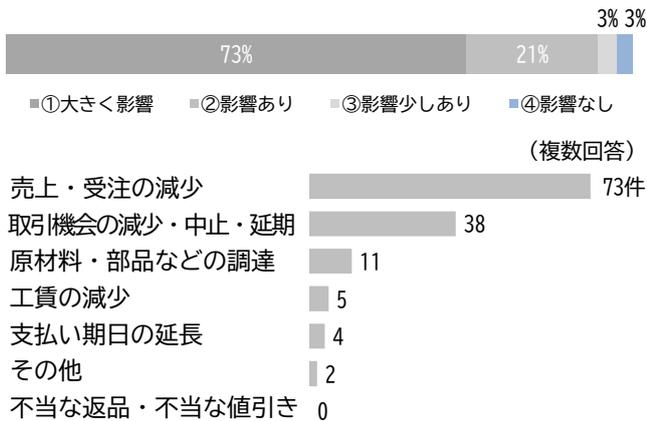
●生産品目別：

白生地は 46%と前年同数も、帯地 47%（前年比 14 ポイント減少）、その他 35%（前年比 17 ポイント減少）となった

Ⅲ 新型コロナウイルス感染症の影響について

1 新型コロナウイルス感染症の影響

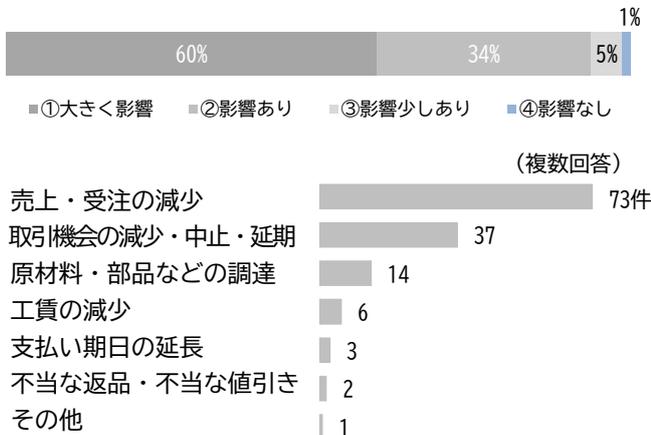
「影響があった」が97%



- 全体：
「大きく影響」「影響あり」「少し影響あり」を合わせ97%となった。
- 影響の内容：
「売上・受注の減少」73件、「取引機会の減少・中止・延期」38件、「原材料・部品などの調達」11件、の順となった。

2 新型コロナウイルス感染症の今後の影響

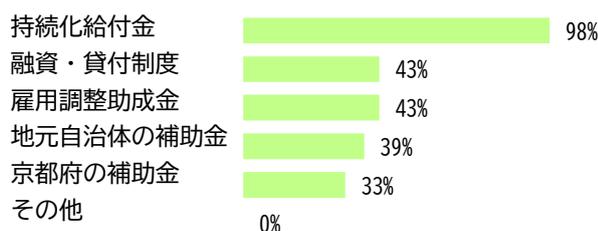
今後についても「影響がある」が99%



- 全体：
今後についても、昨年と同様に、「大きく影響」「影響あり」「少し影響あり」を合わせ99%となった。
- 影響の内容：
「売上・受注の減少」73件、「取引機会の減少・中止・延期」37件、「原材料・部品などの調達」14件、の順となった。

3 コロナウイルス対策支援制度の活用状況

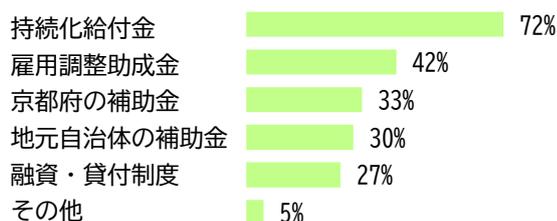
「持続化給付金」の活用98%



- 全体：
「持続化給付金」98%、「融資・貸付制度」43%、「雇用調整助成金」43%、「地元自治体の補助金」39%、「京都府の補助金」33%の順となった。
- 「地元自治体の補助金」では、「京丹後市新型コロナ内需拡大促進事業補助金」などの回答が多かった。
- 「京都府の補助金」では、「京都府伝統産業生産基盤支援事業費補助金」「中小企業者等事業再出発支援補助金」「新型コロナウイルス対策企業等緊急応援（企業グループ支援「助け合いの輪」推進）事業補助金等であった。

4 今後必要なコロナウイルス対策支援制度

多くの事業者が支援を希望

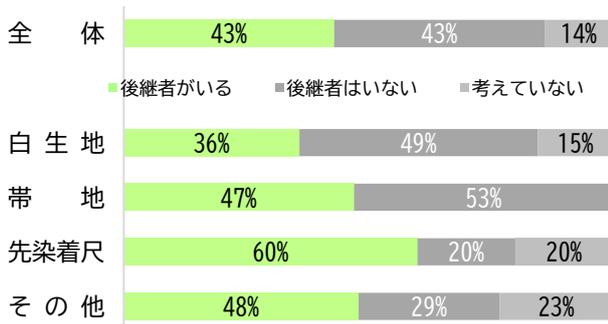


- 全体：
「持続化給付金」72%、「雇用調整助成金」42%、「京都府の補助金」33%、「地元自治体の補助金」30%、「融資・貸付制度」27%となり、今後も引き続き支援制度を求める回答結果となった。

IV 事業所の状況について

1 後継者の有無について

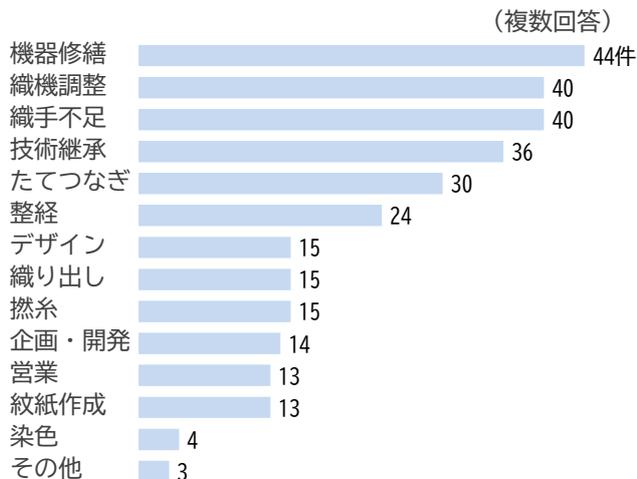
「後継者がいる」が42%



- 全体：
「後継者がいる」43%、「後継者はいない」43%となった。
- 生製品目別：
「後継者がいる」の回答は、先染着尺60%、その他48%、帯地47%、白生地36%の順となった。

2 生産に関する課題について

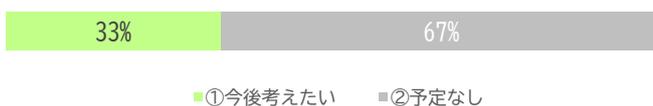
生産に関わる課題は「機器修繕」「織手不足」



- 全体：
「機器修繕」44件、「織機調整」40件、「織手不足」40件、「技術継承」36件、「たてつなぎ」30件、「整経」24件の順となった。

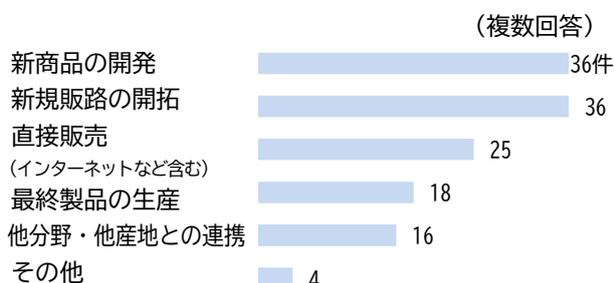
3 設備更新の予定

設備更新を「今後考えたい」が33%



- 全体：
「今後考えたい」回答は33%となった。
また、設備更新の具体的な内容は、消耗設備の「綜統」「吊り込み」のほか、「織機」「ダイレクトジャカード」などであった。

4 今後必要な取組み（取り組んでみたいこと）必要な取組は「新商品の開発」「新規販路の開拓」



- 全体：
「新商品の開発」36件、「新規販路の開拓」36件、「直接販売（インターネットなどを含む）」25件、「最終製品の生産」18件、「他分野・他産地との連携」16件の回答数となった。

V 聞き取り調査による意見等

●個別事業者から聞き取りを行った概要は下記のとおり。

■産地全体に関する意見

- 丹後ちりめんを活用した最終商品を開発して、商品価値とブランド力を高めていく必要がある。
- コロナの影響が続き、先行きの見通せない状況の中でも、今後を見据え技術伝承をしっかりと行っていく必要がある。
- 百貨店や小売店の売上割合が高く、コロナ等の影響で大きく減少したが、今後も厳しいと予想される。しかし、古着市場は活気があり、着物ニーズはあると考えている。ネットを通じたPR等に力を入れたい。

■支援施策に関する意見

- 出機は雇用調整助成金対象とはならないので、休機補償の支援策をお願いしたい。
- インバウンド等観光客減少により、お守りなどの売上は大きく減少。持続化給付金等の支援をお願いしたい。
- 昨年秋頃から生産の大幅な減少が続き、持続化給付金等の支援をお願いしたい。新たな販路も、海外向けの生産は広幅織機が必要で小幅織機では対応できないし、ネット販売もメリットを検討している段階。
- 服地などの広幅織物から和装小物の製造に特化し、新しい取引先を開拓した。今後は内製化を進めるため、織機導入を予定しており、支援をお願いしたい。
- 雇用調整助成金を活用して従業員を維持確保しているものの、雇用調整助成金の特例措置延長が4月末で終了すると影響は大きい。

■商品開発等に関する意見

- 振袖用帯を中心に自社企画の商品開発を行い、例年並みの生産を維持している。今後は、丹後の事業者と協働でブランド製品の企画開発を進める予定である。
- 昨年の売上は横ばいだったが、今年は産地内外の機業と製品の企画開発を進め、売上増を見込んでいる。また、和装用生地や服地を問わず、製造できる製品の種類を増やしたい。
- 新たに寝具等の完成品の企画、製造、販売を進めており、ネット販売も開始する予定。
- 今後、自社オリジナルの服地やインテリア生地などの商品開発を進め、小売店や百貨店、あるいはネット販売なども行っていきたい。
- 今後は製織だけでなく、洋服や雑貨などの製造を考えており、そのための設備導入やネット販売を検討したい。

■直接販売（ネット販売含む）に関する意見

- 地域内の織物事業者と連携したマスクの販売が好調だったが一時的なものだった。取引の約9割を占める百貨店の販売は厳しい。ネット販売を検討したい。
- 昨年後半からコロナの影響で量販店での販売が厳しくなり、ネット販売を取り組んでいるが難しい。
- 和装需要の減少とコロナの影響で厳しいが、十数年前からネットを活用し、着物や和装小物をPRしてきた。ネット販売の売上割合も高くなり、有効なツールと考えている。
- 素材を産地業者から購入し、加工を行い、雑貨を完成品として販売している。ネット販売も活用し、売上拡大を進めている。

令和3年(2021)3月

調査・編集・発行

公益財団法人京都産業 21 北部支援センター
〒627-0004

京都府京丹後市峰山町荒山 225

丹後・知恵のものづくりパーク内

TEL : 0772-69-3675 FAX : 0772-69-3880

E-mail : hokubu@ki21.jp